

あ お や ま た だ し

# 青山正さん

きゅうえんかい

# 救援会ニュース

第59号  
(2001.6.23)

東京都港区新橋2 - 8 - 16 石田ビル4階  
TEL03-3591-1301 FAX 03-3591-3583  
E-mail:CZX00547@nifty.ne.jp  
郵便振替 00120-0-357320 青山正さん救援会

## 青山さん来京報告

毎年年末年始とお盆の時期に、関西で暮らす青山さんに東京に来てもらうことが恒例となっています。今年の年末年始も青山さんが東京にやって来ましたので、そのことについてそれぞれ時間を一緒に過ごした人から報告してもらいます。

大晦日の昼過ぎ、青山君と菊池さんが一緒にやってきた。いつものようににこやかに笑顔を見せながら元気そうな様子であっ

た。

青山君、青山君と言っているが、20年以上昔に出逢い、そのままの呼び方で変わっていないけれど、3人共50歳の峠を越えてしまったのだ。

やはり逢えば昔の話になる。懐かしい思い出話に花を咲かせ年越しソバを食べ菊池さんは帰って行った。年末恒例の紅白歌合戦はテレビが壊れていたので見ることができず、2人共早く床についた。

翌元日は朝から快晴で気持ちよかったが風は強く冷たかった。お雑煮を食べ房総の方に出かけることにした。不評のアクアラインを通り早春の南房総に着く頃は陽射しもぼかぼかと温かく気持ちよかった。

ほとんど交通のない田舎道はのどかで、都会では味わえない新年の静けさがあった。

白浜から館山に向かう途中で、青山君が出所後、お世話になった中村さんの家のことを思い出し寄ってみることにした。しかし捜し当てた新旧の工房に人影はなく誰にも逢うことはできなかった。

再び車を走らせ、那古寺に行き初旨をした。人影のまばらな寺は燈明と香の香りが幼い頃の新年を思い出させた。寺の創建当時は眼下に波が打ち寄せていたらしいが、今ははるか民家屋根遠くに内房の海がみられる程度であった。

しばらく境内のベンチで陽光を浴びながら、この風影を楽しんだ後、大きな鐘楼台に登り鐘をついた。帰途、房総の名所である鋸山に登った。

駐車場から展望台までは石ころの悪路で、しかも、登り下りがあり、青山君の足では無理と考え、残念ながら引き返すことにした。下山途中で見晴らしのいい場所に車を止め、しばらく陽春の海を潮風を受けながらぼんやりながめて過ごした。

帰りは金谷から久里浜に出ることにした。

金谷のフェリーポート乗り場で遅い昼食をする予定であったがここもレストランは閉まっていた。

元日なので道筋のレストランはほとんどやってなく、開いている所は大変混雑していて、昼食を食べそびれてしまった2人は空腹を抱えていた。

船内の売店でパン、牛乳、寿司を求め、船にゆられながらやっと昼食にありつ

た。

東京湾に沈む大きな夕陽を観ているうちに船は久里浜に着いた。

三浦半島を縦断して家に着く頃は日もどっぷり暮れていた。

疲れていたので近所の銭湯に行くことにした。

いつも狭い風呂に入っていた我々にとって大きく、湯量も多い銭湯は新鮮であった。

次の日熱田君が迎えに来てくれた。雑煮でも思ったが、熱田君は何も食べることなくお茶を飲み少し休んで青山君と2人で帰っていった。

青山君と2人で過ごしたのどかな正月であった。（森）

私が医師の森さん宅に伺うと、もう青山さんは出発する準備ができていました。少しお茶をいただきながら、1 / 1 はどうしたのか聞いたら、森さんとドライブに行っただけと言っていました。テレビが故障して、紅白歌合戦が見れなかったこととか雑談していました。

森さん宅を出て、新京成で松戸まで行きましたが、その途中で、青山さんが帽子にいろいろな物をぶる下げているので、聞いたらバンジーのみんなもやってるそうです。松戸で内田君と合流し、昼食をとりま



した。ビールを注文すると、昼間から飲むの？と言いながら、しっかり注文していました。

そのあと、待ち合わせの下北沢まで移動しました。(熱田)

#### 青山さん滞在記

2001年のお正月もたった1日でしたが、青山さんを我が家に迎えて楽しいひとときを過ごしました。事前に関東救援金の熱田さんと連絡を取り合って、当日の1月2日は“若者の街”下北沢で待ち合わせることにしました。下北沢に向かう途中で電話を入れてもらうことになっていた(?)のですが、すでに下北沢にいるという連絡が入り、電話だと熱田さんも青山さんもなかなかうまく話が通じず困っていると、一緒にいた内田さんが電話に出てくれて、下北沢のマクドナルドで待っていてくれることになりました。

「関東救援会の内田ですが、青山さんとは久しぶりなので、ぼくも青山さんと一緒に夕食をしたいのですが...」と電話口で言われ、一瞬、青山さんは気を使わないですむし、食べ物は何んでも「おいしい」と言って喜んでくれるからいいけれど、関東救援会の知らない人が来るとなると、ちょっとしんどいなあ、と内心思ってしまったのですが、「大したものはないけれど、どうぞ」と伝え、内田さんは「途中で買い物をして自分の食べる分は買っていきますから」と言う。「そんなことは気にしないで、あるもので作るから大丈夫よ」と私。内田さんがなぜ、自分の食べる分を買うとまで言ったかについては遠慮しているだけだとしか理解していなかった私でした。

そんなこんなで、急いで下北沢へ行き、青山さんご一行と合流。内田さんは大阪で出会っていた人だとわかり一安心。青山さんは相変わらずの調子で再会を喜んでくれ

ました。正月2日も下北沢は若者で賑わい、でもいつもと違うのは、ごっちゃまぜで解放的なこの街には似合わない「日の丸」(今年からなのか、真新しい白さだった)が商店街のアーケードにズラリと並んでいたことでした。熱田さんが会報に使う予定の写真を撮るといっているので、日の丸が入らないように、駅の看板「下北沢」をバックにして撮ってもらいました。熱田さんは用事があるのでここで別れ、下北沢からは30分もかからない我が家へ向かい、途中でスーパーに寄って内田さんをサポートして買い物をして、4時頃に我が家到着。

青山さんも内田さんが一緒なのでうれしそう、いつもよりもハイテンション。まだ4時だけれど正月だからと、さっそく乾杯となる。おせち料理とありものの酒のつまみを出し、内田さんの指導でゴーヤならぬセロリとソーセージのチャンプルーなどをたっぷりと作る。青山さんを囲んでとりとめなくおしゃべりがつづく。気がつくとも食べ物がもうない。青山さんも内田さんの食べっぷりと飲みっぷりに大笑い。今回は豪快な内田さんに青山さんも押され気味。これで、彼が自分の食べるものは自分で買うと言った意味が理解できたのでした。いつも行った先の冷蔵庫をカラにする、と彼は笑って言っていましたが、そういう気持ち良い食べっぷりの人に久しぶりにあい、料理する方はうれしくなりました。

その日も連れ合いは仕事でしたが7時頃に帰宅し、さっそく一緒に宴会。再度チャンプルーやつまみを作り、今度はとっておきの生酒を出し、また飲んで食べて...。笑い声の絶えないひとときが過ぎていきました。内田さんがそろそろ帰ると言った9時少し前には、一升瓶もほぼカラに。青山さんはビールの方が好きなようで、酒はほとんど内田さんが飲んだ(?)模様。内田さんを駅まで送り、その間は連れ合いとおし



ありません。協力会費のご負担が困難な方は、その旨救援会にご通知いただければそのように手続きいたします。

3. 年末年始とお盆に青山さんが東京に来るのが恒例になっています。今回も青山さんはお盆に上京する予定です。救援会メンバーが中心になって、青山さんの日中の行動や宿泊場所の確保を行います。ご協力いただける方、青山さんと会って話をしてみたい方はぜひ救援会までご連絡下さい。

4. 昨年の集会で講師をやってくださった内藤先生の著書「あなたはやっていない」集会用に救援会で買ったなら残部が残ってしまいました。ぜひ買って下さい。法医学の観点から、種々のえん罪を明らかにした自身の体験が詳細に記されています。本来定価1500円ですが、1冊1200円で結構です。送料もサービスします。救援会あての郵便振替用紙に、「『あなたはやっていない』希望」と書いてお申し込みいただければお送りします。



## 会 計 報 告

2000年4月1日～2001年3月31日の会計報告

収入		支出	
前期繰越	147,851	切手代・郵送費	30,900
協力会費	75,000	集会会場使用料	6,150
会費	23,000	事務局会議用会議室料	12,040
カンパ	20,792	弁護士会議交通費	47,800
集会会場費	7,000	裁判資料準備	29,357
郵便貯金利子	144		
-----		-----	
	273,787		126,247
次期繰越	273,787	-	126,247
		=	<u>147,540</u>

野田事件再審基金報告 (2000年4月～2001年3月)

収入		支出	
繰り越し	133,000	コピー代	67,671
カンパ	37,000	ダイレクトメール	80,121
		残額	22,208円